

第 1 回 モビリティサポート有識者委員会の概要

1. 開催日時等

日 時： 平成22年 5 月25日（火） 15：30～17：30
 場 所： 中央合同庁舎 2 号館低層棟 共用会議室 3 A
 出席者： 委員長 岡部 篤行 青山学院大学総合文化政策学部 教授
 委員 河端 瑞貴 東京大学空間情報科学研究センター 准教授
 委員 越塚 登 東京大学大学院情報学環 教授
 委員 竹中 ナミ 社会福祉法人プロップ・ステーション 理事長
 委員 寺部 慎太郎 東京理科大学理工学部 准教授
 事務局： 国土交通省 政策統括官付参事官付

2. 委員からの主な指摘事項

提案のあった 11 件の取組のうち、以下については、モデル事業としての実施が適当であるとの意見があった。

また、より効果的にモデル事業を実施するため、以下の意見が付けられた。

協議会の名称	有識者委員会からの主な意見
「東京ユビキタス計画・銀座」実施協議会	<ul style="list-style-type: none"> 適切な地点、間隔で場所情報コードを活用し、視覚障がい者に対してリレー形式で道案内を行う取組は、先進性・汎用性が期待される。 事業効果としての数値目標を明確にして頂きたい。 (例えば、参加者(視覚障がい者)からの満足度等)
(仮称)台東区谷中地区モビリティサポートモデル事業推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が電子透かし技術付きQRコードをうまく利用出来るかが課題。 観光客(特に外国人観光客)が、どれくらい満足して頂いたかを計測する必要がある。
(仮称)武山養護学校モビリティサポート協議会	<ul style="list-style-type: none"> 知的障がい者の通学支援という観点は新規性があり、同様の支援が広がっていくことが期待される。 事業を確実に実施するための体制確保及び一層の技術的な深掘りがあると良い。
京都子連れ観光推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> 子連れを対象にした取組は新規性がある。 コンテンツ数が目標として掲げられており、提供する情報内容の充実が期待できる。 ただし、単なる観光ガイドとならないよう、移動支援サービスの着実な実施が求められる。 子連れ観光客の移動円滑化のためには、歩行空間ネットワークデータの活用が求められる。

<p>(仮称)丹波篠山ユキピタス 推進協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行空間ネットワークデータの活用が具体的であり、確実な取組が期待される。 ・開発研究の実施が記載されているが、技術開発に終始することなく、移動制約者への移動支援というモデル事業として実施すべきことについて、焦点を絞ることが必要である。
<p>津和野町ユキピタス観光ガイド 運営協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行空間ネットワークデータの活用が具体的であり、確実な取組が期待される。
<p>天神・大名地域W i F i 化 推進協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・W i F i を活用した地下街でのシームレスな移動支援を可能とする特徴的な実験であり、今後の展開が期待される。

以 上